いしかれんだより 第11・12号

平成6年 3月15日発行
発行人 林 久夫
発行所 石川県精神障害者家族会連合会

家族が明日に向かってめざすこと

石川県精神障害者家族会連合会
会長 林 久夫

私は、石川県精神障害者家族会連合会（以下石家連という）の会長に就任してから早3年が過ぎました。責任の重大さを痛感しています。そして、石家連活動に対して県下の単会家族会の格別の御尽力と御理解に深く感謝しています。

全国精神障害者家族会連合会（以下全家連という）の評議員もしていますと全国の動きも知るようになります。ここで、二、三点述べたいと思います。

先ずは、今年度、精神保健法が一部改正されました。その中で地域生活援助事業（以下グループホームという）が法文化され、制度として位置づけられました。グループホームは、住む場がなく、ひとり生活に不安があって困る人が、5～6人で互いに支え合いながら安心して地域で生活できるようにと考えられたものです。そして、困ったことなどは、世話人に相談できるようになっています。また、社会復帰施設の運営費設置者負担が解消されました。

それから、昨年11月26日、心身障害者対策基本法の一部改正が決まり、障害者基本法に改められました。法律の対象に精神障害が含まれ、自立と社会経済活動への参加の促進が目的として位置づけられています。国は、障害者施策に関する計画を策定することになり、都道府県、市町村は計画を策定するように努めることになっています。

家族の思いは、親なき後『子供はどうなるだろうか』と毎日悩み考えているものです。身近な所に住まいがあり、いつでも相談できる医者がいて、身近な所に仲間がいて、そこにはくつろげる場所がある。そして、働く機会と働く場所が確保され、生活のための所得が保障される医療、保健、福祉の総合的な精神障害者施策の確立が大多数の家族の願いではないかと思います。

平成5年度には、金沢市に「共同作業所　鳴和の里」と富来町に「富来町すみれ作業所」が設立されました。県内に作業所が7カ所も開所した事になります。大変に喜ばしい事ですし皆さんの御努力に感謝するところです。

石家連の活動を来年度に向けて更に前進させていくことが重要な課題だと思います。会員が力を合わせて全家連の全国統一陳情活動を県内の市町村に拡げ、自治体の障害者施策の改善、向上の活動を展開すると共に家族会の研修活動、関連団体との連携、精神保健の啓発する事業を計画し実施することだと思います。

全国大会に参加して

石川県精神障害者家族会連合会
副会長　梅　田　克　広

はじめに

全国大会についての原稿の依頼がありましたので拙い文章を綴りますが大会の詳細は「ぜんかれん」12月号に特集されておりますので、できるだけ皆さん「ぜんかれん」誌をお読み下さい。私は大会に参加されなかった方「ぜんかれん」誌をごらんにならない方に断片的でありますが思いつくままに報告します。

全国大会は年１回の祭典であり主催県が全力を傾注して企画しそのときの家族会活動の最高の水準であると思っています。参加する家族は参加することに意義を感じ自分が関心あることを聴講して多少なりともプラスになればと思っています。

全国大会に参加して思いつくまま大会のハイライト記念講演は

精神障害者の医療と
社会復帰への見通し
講師　藤田保健衛生大学
教授　笠　原　　嘉　先生

最初に分裂病というのは現在どういうふうに治療されどこまでわかってきてそして家族にどうあって欲しいかということを前提として話をされました。

- 分裂病は1000人に10人は体験しており、只今この１年間にこの病気の治療を受けている今病気だという人は1000人に３人位は居る。かなり身近かな病気である。
- それに対する医療は薬による治療
  病気の本質として慢性病であり症状がよくなっても必要最低限の薬は必要
- 社会復帰という治療
  病院で行われている遊びに見えることも「社会性」の点滴という治療
- 社会の中で生きるということ
  分裂病という人に失われるのは社会の中で生きてゆく人間としての社会性である。家族だけで他人が入らぬのは社会ではない。
- 話をよくきくという精神療法
  患者の話をできる限り聞く耳をもってくれる。そういう先生を見つけ長くつきあう
- 病院でできない親の理解と協力
  分裂病は遺伝によるものでないから

あまり自分を責めないで病気になった人を助ける力を一番持っているのは両親であるとの自覚が大切と思うそのうえで医者と協力して治療にあたるべきである。

●笠原先生の家族に対する助言

精神障害者を持つということをあまり恥じすぎないように。まだ始まって間もない5年か10年位までの病人を持つ人はどうか根気よく治療を続けられるようにして下さい。主治医をできるだけ一定にして。

おわりに

私は熊本大会・宮城大会・東京大会・名古屋大会と連続して参加しましたがこのような大会に出席することが自分自身の為になっていると思っております。家族の方も参加者が毎年増えております。このような大会は有意義に利用したいと思っています。

強く歩み出した作業所部会の活動

石川県内の精神障害者小規模作業所も平成5年4月から7カ所に増え、石川県精神障害者家族会連合会作業所部会（以下部会という）も本格的に活動できるようになりました。

部会では、4月に事業計画を立て、月1回の定例会を開催しています。会場は精神保健センターの研修室を使わせていただいています。

今年度の部会の活動は、柱を3本立てました。

一つは、作業所へ通所しているメンバーの家族を対象としたアンケート調査事業です。このアンケート調査は、家庭内の生活の様子や作業所での様子をどのように家族に話しているのかを尋ねたり、家族の方が作業所に対してどのような希望、意見を持っているのか聞かせてもらうものです。そして家族の方々とこれからの作業所の在り方の資料とするものです。現在集計作業を進めています。二つ目は、事務処理や会計について具体的に学習することです。また、三つ目として、県外先進地の視察研修に取り組むことです。

部会の年間予算は、各作業所からの会費1万円と石家連からの2万円の助成金から成り立っています。

（作業所部会）

特　集

視察研修の見て歩き

——大阪・枚方市——

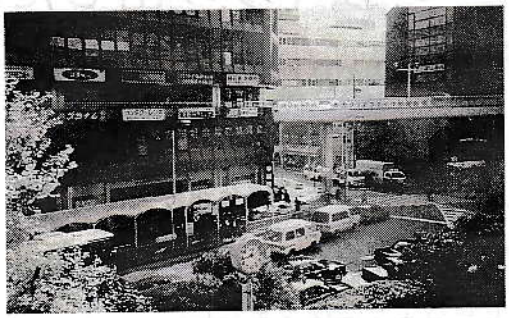
◆ 県外先進地視察研修に取り組んで ◆

昨年12月７日～８日と各作業所の職員、精神保健センター所長と職員１名石家連役員２名、地域家族会々員２名社会福祉協議会職員、保健所保健婦４名の総勢17名の大（？）視察団で大阪府枚方市へ行ってきました。

枚方市の家族会と作業所の活動については、昨年名古屋で開催された家族会の全国大会で枚方保健所保健福祉推進室室長の石神文子さんが発表されたので聞かれた方もあるかと思います。また、「月刊ぜんかれん」の12月号にその時のお話しの内容が掲載されていますのでお読み下さい。

枚方市の作業所を見学して特に感じたことは、その内容のバラエティーさでした。喫茶店あり、お惣菜屋さんあり、手すきハガキあり、内職ありとそれぞれの作業所で工夫されている様子がうかがえました。また保健所がコーディネーターとして強く働いていることも感じました。くわしくは他の参加者の感想にゆずりますが、なにごとも百聞は一見に如かずという思いを強くしました。

（くろゆり作業所　中田　なみ子）



◆ 視察研修に参加して ◆

——その　1——

平成５年12月７日～８日大阪府枚方市の小規模作業所見学に行き、市内の４～５カ所の作業所を見学してきました。

全体として感じたことは、家族だけでなく色々な人がボランティアとしてかかわっており、若く有能な指導員により運営されていることで、本人・家族が安心して利用できるのではないか。また、市や府から経済的支援がきちんと行なわれていることが作業所の発展に大きな力になっているということを感じました。

作業所はそれぞれ特徴があり、通所希望者は全部の作業所を一通り見学し自分の行きたい作業所を決めるという

ことでした。本人の障害のレベルに応じて自分の意志で、いくつかの作業所の中から自分が通いたい作業所を選択できるということは、すばらしいことだと思いました。

最初に見学した「陽だまり」では、二階に誰でもくつろげるサロンがあり、休みながら人によっては内職をしたり、下のランチショップを手伝ったり等、個々に応じた過ごし方をしているということでした。本人の憩える場所が確保されており、初めての人も無理なく馴染めそうな感じがしました。そのすぐ近くには「ちゃぶ」というお弁当を作っている作業所があり、「陽だまり」である程度自信をつけた人が働いているということでした。

2日目に見学した「ぐるーぷ・風」では手芸品を作ったりしており、数分作業しては休憩という人も通ってきているとのことでした。「やなぎ工房」では内職作業の他に、牛乳パックを利用してのはがき作りや人形劇の上演を行なっているとのことでした。作業所の中にも舞台があり近くの子供達のために上演したり、時には学校や施設などから上演依頼があり出かけることもあるそうです。指導員の方の説明では、作業所に通うことだけを目標とせず、それぞれの思いや力に合わせて援助しており、一般の職場へ挑戦した人も十数人いるということでした。

今回、兄弟の立場で初めて視察研修に参加し、多くの精神障害者の方々と出会ったことにより、自分の本人に対する見方が変わったように思います。病気や障害についての理解も深まったし、今まで年老いた両親に本人のことを任せていましたが、自分として何か出来ることがあればと思うようになりました。本人も、家で家族といっしょなら長続きしないことでも、同じ病気を持った仲間や自分を受け止めてくれる指導員といっしょなら何か出来るのではないかと思います。また、家族も本人が一日中家にいることで負担を感じたりする場合もありますが、やはり家族の思いより本人の気持ちが一番大切だと感じました。　研修に際して、事前に勉強していけばもっと有意義な研修となったのではないかと感じましたが今後兄弟にもこういう研修の機会が増えればと思っています。

今回の研修では、県内の若い熱心な作業所指導員の方々とも出会え、何か力強い思いをして帰ってきました。

（鍛治正勝、浜二向平）

◆視察研修に参加して◆

――その 2――

平成５年12月７日～８日、この２日間は、私に大きなインパクトをもたらせた視察研修でした。私にとって作業所についての認識は、テレビ等の報道による知識程度でした。現在の私は、町の社会福祉協議会（法人）の事務局長という立場にあり、法制度上は、福祉行政の枠内での対応で良しとするところに位置づけられていると思います。

つまり、医療行政との接点を点としてお付き合いしていけばそれで十分なのだという事です。しかし、私は、そんな有り方に何か割り切れない思いを持っております。そんな折、輪島保健所宇出津支所の兼間保健婦長さんより今回の視察研修に参加されては如何かとの積極的なお誘いを受け参加した次第です。

作業所視察の内容について触れることより以下の事をお伝えして拙文を終えたいと思います。

先ず、第１に今回参加された県内の作業所の指導員の方々の殆どが社会福祉協議会の何たるかをご存じなかったこと。極論すれば存在すらご存じなかったということ。ということは、前段に述べましたように法制度上の“タテ”割り行政が当事者を見過ごしているという事ではないかと思います。第２は、当町には、知的障害（児）者の親の会、つまり育成会がございます。この方達が、町内に小規模でも良いから作業所を作ってもらいたいとの希望を持っておられ、私ども協議会に相談にきています。話は前後するのですがこの相談を受けた後に保健婦長さんより話があり、町長に視察出張伺いをしたところ「勉強して来てくれ」とのことで参加しました。そして、視察研修の結果復命後、いろいろの過程があり、政策的には公表する段階ではないですが町としては前向きに対応をしたいとの意向を示しております。

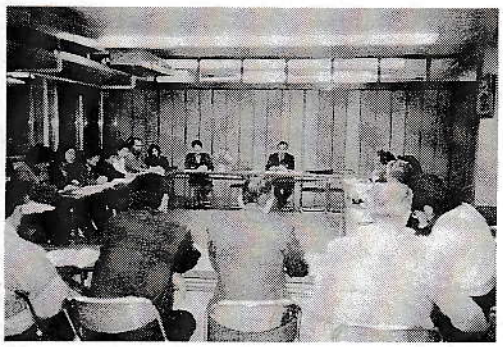
知的障害、精神障害、身体障害等という枠を越えた作業所の在り方を家族会や地域の方々と協力しながら進めて近い将来に出発できればと考えています。それから、視察の対象になっていなかった知的障害者等の作業所、『クッキー工房、おれんじはうす』のクッキーは評判がよく私の娘の要望もあり、２度注文で送っていただきました。

（能都町社会福祉協議会
古　本　俊　之）

◆視察研修に参加して◆

――その 3――

昨年の12月７日～８日に作業所部会の研修会に参加させてもらい大阪の枚方市へ行ってきました。枚方市は住民の文化レベルが高く、福祉に力を入れている市だとの事でした。それを裏づけるように駅前の一等地の大きなビルに社会福祉協議会があり、窓の大きな看板が目立ちました。市には精神の担当窓口があります。だから精神の活動も展開しやすい基盤は元々あったのですが、今のように活発になったのはここ最近の５年前からだそうです。法改正で弾みがかかったとは言え、２日間の研修を世話して下さった枚方保健所の石神保健福祉推進室長さんの陰の力は大きかったのではないかと思われました。現在、市には38カ所の作業所がありその内の５カ所が精神の作業所です。５カ所同じ事をしているのでなくそれぞれ特徴があって対象者の方が自分に合った所を選ぶことができます。弁当屋や喫茶店などサービス業をしている作業所は私の持っていた作業所のイメージを一新する明るいものでした。作業所の運営だけで手一杯だと言う所も多いと聞きますが枚方は作業所を拠点にして次の目標に向い次々と活動を展開していっている事がすごいと思いました。又、指導員さんの熱意にも頭が下がる思いでした。



枚方のいい所をあげれば限がありませんがさて、『輪島で真似ることは何があるかなあ』と考えました。まず、私自身が目標をもちメンバーにかかわり、希望を持ち続けること。それと患者会、家族会と市町の関係者とプライバシーの差し支えない範囲で結びつける場を設定してくこと。講演会で啓もうする事や会議も大事ですが真近かに接してもらう事がよりわかってもらう近道だと思いました。一緒に視察に行った元気な小松の作業所の方、家族会の方、能都町の意欲的な社会福祉協議会事務局長さんその他頑張っておいでる色々の方とお会いできた事が私も頑張らなくちゃと言う勇気がわいてきた研修会でした。

（輪島保健所　島　田　　和）

会員の輪を広げよう

“ぜんかれん誌”の購読者を
ひとりでも多く広げましょう
会員年間購読料は2,400円です。

- ひとり悩みを解消しよう！
- ひとりの力でなく皆んなの力で社会復帰・参加を促進しよう！
- 社会資源・制度を皆んなで学び合いましょう！

バックナンバーご案内

297号	'91〈平3〉年10月	病気をどう伝えるか
298号	'91〈平3〉年11月	家族会と作業所
299号	'91〈平3〉年12月	宮城大会
300号	'92〈平4〉年1月	力を与えられた言葉
301号	'92〈平4〉年2月	例会を工夫する
302号	'92〈平4〉年3月	薬のギモンQ＆A
305号	'92〈平4〉年6月	センター設立の一年
306号	'92〈平4〉年7月	家族会とわたし
307号	'92〈平4〉年8月	回復者クラブとわたし
308号	'92〈平4〉年9月	精神障害者施策の展開
310・311号	'92〈平4〉年11・12月	読者からのメッセージ
313号	'93〈平5〉年2月	東京大会
314号	'93〈平5〉年3月	一日の過ごし方
317号	'93〈平5〉年6月	試してみよう！ひとり暮し
319号	'93〈平5〉年8月	全家連家族福祉ニーズ調査
320号	'93〈平5〉年9月	結婚をふつうに考えたい
321号	'93〈平5〉年10月	あなたにとっての差別・偏見
322号	'93〈平5〉年11月	家族・看護者のこれから
323号	'93〈平5〉年12月	愛知大会

●285、291は「入会のおすすめ」「全家連の出版案内」です。

申込み問い合せ先…各家族会の事務局または
石家連事務局（石川県精神保健センター内）TEL(0762) 38－5761まで

○○○ 編集後記 ○○○

春、近い今日この頃となりました。精神保健法の改正、障害者基本法の成立と少しづつですが私たちの願いが実現してきているように思えます。

待っていては、何も出きません。

力を合わせて頑張りたいですね。県内の作業所も７カ所となりました。昨年12月、大阪・枚方市に視察研修してきました。新しい作業所の在り方や、地域の活動を学ぶことが出きました。今回は特集として視察状況を掲載してみましたが如何でしたか。

家族会へのご意見等も事務局へお知らせ下さい。お待ちしています。